

児童が論理的思考を展開し、説得力を持った文章を書けるようになる授業を目指して
 — 国語科における、文章構成図の活用と思考に関わる語句の指導の工夫を通して —

栗原市立宮野小学校 尾形 大樹

1 目指す授業像

- (1) 文章構成図を活用することで、児童が文章から得た情報の関係性を整理したり、筋道立った文章構成で書いたりする力を高めることができる授業。
- (2) 思考に関わる語句を活用することで、児童の論理的に思考する力を向上させる授業。

2 研修テーマ・目指す授業像に迫るために

これまでの国語科の授業においては、思考に関わる語句について意識的に指導し、それを活用する力を伸ばすことができていなかった。また、物語や説明文の単元では、文章を読んで考えたことをノートに書かせる際、単なる感想文を書かせるだけの指導となっていた。児童の論理的思考を促し、その考えを適切に表現させるための授業ができていなかったことがこれまでの課題であった。

そこで、「文章構成図」を用いることにより、情報と情報との関係を可視化して捉えて読んだり、筋道立った文章構成を意識して文章を書いたりすることができると考えた。また、自分の考えをはっきりとさせる「思考に関わる語句」を活用すれば、児童が論理的な思考を展開し、説得力のある文章を書くことができるようになると考え、本研修テーマを設定した。

なお、「文章構成図」とは、児童が出合った文章の情報を整理したり、自身の持っている情報との関係性を明らかにしたりしながら文章全体の構成を可視化し、確認するためのものである。また、実際に児童が自分の意見を書く際に、筋道立った論を展開することができるようにするために、「構成メモ」として活用させることもできる。「思考に関わる語句」とは、「～と考える」（意見）、「例えば～」（例示）、「なぜなら～から」（理由）、「～は～より…」（比較）などの語句を指す。文章から得た情報について考えを書いたり話したりする場面や、友達の考えを受けて、自分の考えを広げたり深めたりする場面で活用させる。

3 I期の取組について 【単元名「新聞の投書を読み比べよう」（東京書籍 新編新しい国語六）】

(1) 研修テーマに迫るための手立て

- ① 児童が筋道立った論を展開できるための文章構成図の活用
 - ア 文章構成図を活用し、教材文の投書の文章構成に気付かせる。
 - イ 文章構成図を基にした構成メモを活用し、筋道立った論の構成で意見文を書くことができるようにする。
- ② 児童の考えをはっきりとさせるための思考に関わる語句の指導の工夫
 - ア 思考に関わる語句が使われている文章と、使われていない文章とを比較・検討し、思考に関わる語句の文章中での効果と使い方を理解できるようにする。
 - イ 児童が文章中での効果と使い方を理解した思考に関わる語句をまとめたものをファイリングし、意見文を書く場面で活用できるようにする。

(2) 具体的な取組

- ① 児童が筋道立った論を展開できるための文章構成図の活用

本時では、教師が作成したスポーツに関する投書を段落ごとに切り分け、順序を変えて提示し、筋道立った文章になるように並べ替えるという学習活動を行った。前時までに読み取ってきた教科書にある4つの投書の要旨を文章構成図にま



図1 文章構成図の活用

とめ、それぞれの段落の役割や文章構成を可視化して捉えることができるようにし、本時の学習で活用できるようにした（図1）。

② 児童の考えをはっきりとさせるための思考に関わる語句の指導の工夫

前時までに、「～ではないだろうか」のように問題提起や意見の主張を表す語句、「でも」のように情報と情報との関係を表す語句、「理由は～からだ」のように理由を表す語句など、思考に関わる語句の、文章中での効果や使い方について学習してきた。

本時でも、切り分けた投書の文中にある思考に関わる語句を赤ペンで囲み、既習内容と照らし合わせながら、それぞれの段落の役割を読み取らせ、筋道立った文章に並べ替えさせる際の根拠とさせた（図2）。



図2 思考に関わる語句を見付け、段落の役割を読み取る

(3) 成果と課題（○：成果，●：課題）

① 児童が筋道立った論を展開できるための文章構成図の活用

- 教科書のスポーツに関する4つの投書を文章構成図に表すことで、段落の構成が捉えやすくなり、双括型の文章構成を理解させることができた。
- それぞれの段落の役割をはっきりと捉えることができ、単元の最後に意見文を書く際に、段落の役割を理解した上で、構成を意識して書くことができた。
- 筋道立った文章に並べ替える本時の学習活動の際、文章構成図を基に、筋道立った文章構成を考えている児童が多く、児童が必要感を持って活用する場面が見られた。
- 文章構成図は、児童が文章の構成を一目で分かるようなものにしたいと考えていた。しかし文章の要旨をまとめると、字数が多くなってしまった。その結果、作成に時間が掛かるとともに、一目で文章構成を見取ることができなくなってしまった。下位の児童は、作成した文章構成図を読み取るにも時間が掛かっていた。下位の児童でも手軽に作成でき、文章構成が一目で分かる文章構成図の様式を考えていく必要があった。

② 児童の考えをはっきりとさせるための思考に関わる語句の指導の工夫

- 思考に関わる語句を、「考えをはっきりさせる言葉」と呼んで児童に指導し、単元を通してワークシートに言葉の使い方や効果をまとめさせてきた。その結果、本時の授業でも文中から思考に関わる語句を見つけ出し、「意見」や「理由」などの段落の役割を判断する根拠とすることができていた。
- 「『～こそ』という言葉によって、筆者の主張が強くなっている」「『確かに～だが、でも～』と書いてあるから、反対意見に対して反論をしている」という発言や記述が見られたことから、児童が思考に関わる語句に着目して、筆者の考えを読み取ることができるようになってきており、語句の持つ意味や効果を踏まえて思考することにつながった。
- 下位の児童は、思考に関わる語句の効果をワークシートにまとめることが難しく、例文を作ることで精一杯という実態であった。本単元では、思考に関わる語句を丁寧に扱う時数が1時間と少なかったため、単元を通じた帯活動として指導時数を確保することによって、児童の論理的思考力を高めていけるのではないかと考える。
- 「です」や「ます」のような助動詞も「丁寧な断定」という意味では、思考に関わる語句として児童に理解させていく必要があるが、多数ある助動詞をどれだけ授業の中で取り上げて指導するかという見通しを持っていなかった。その結果、助動詞についての扱いが不十分になってしまった。小学校段階では助動詞の活用を直接的に指導するのではなく、言葉に関する生活体験や既習の内容と照らしながら文法的な意味理解を図っていくことを大切にして指導できるようにしていきたい。

③ その他

- 本時の指導過程で、学習形態を工夫し、個人からペア、グループ、全体と広げて並べ替え根拠を話し合うことで「意見文の文章の型や、文章中の言葉に着目して読み、筋道立った文章構成を捉える」という本時のねらいに迫ることができた。
- 全体で並べ方を確認する際、反論の段落の場所で、意見の異なるグループがあったため、意図的に取り上げ、全体で共通理解を図った。その際、反論の段落の効果についても考えさせ反論の段落があった方がより説得力のある文章になるということを確認することができた。
- 単元の始めと終わりに「給食中のおしゃべりは止めよう」という投書を使って、意見文を書く活動を行ったが、学習の前後では、説得力のある段落の構成力や思考に関わる語句を使って考えを書く力が向上した。学習前（図3）、学習後（図4）のように、ほとんどの児童が、意見と理由を段落に分けて書くことができるようになり、説得力を持たせるための筋道立った段落構成（双括型）を意識して書くことができるようになってきた。

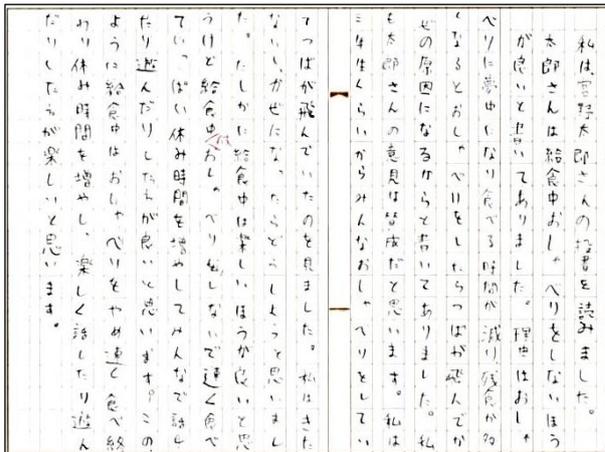


図3 単元の始めに書いた意見文



図4 単元の終わりに書いた意見文

- 段落の順序を変えて投書を提示した際、「順序で気付いたことはありますか」と発問したのだが、「順序」というキーワードを出してしまったため、児童の思考が限定されてしまった。提示する中、「おかしい」というつぶやきが聞こえていたことから、「なぜおかしいと感じたのですか」と切り返し、児童の発言を受けながら、本時の課題につないでいくという流れで進めた方が、より児童が主体的に課題把握をして並べ替えの学習に入ることができたと考える。予想される児童の発言から、発問を吟味していくことが必要であると感じた。

4 II期の取組について【単元名「資料を生かして呼びかけよう」（東京書籍 新編新しい国語六）】

(1) 研修テーマに迫るための手立て

I期の取組で明らかになった課題を基に以下の手立てを講じた。

- ① 児童が筋道立った論を展開できるための文章構成図の活用
 - ア 文章構成図の内容を工夫し、児童が一目で文章構成を理解することができるよう、簡潔かつ明快なものにしていく。
 - イ 下位の児童でも作成に時間が掛からず、活用しやすい様式にしていく。
- ② 児童の考えをはっきりとさせるための思考に関わる語句の指導の工夫
 - ア 思考に関わる語句の指導を、単元を通して行い、児童が言葉の使い方とその効果を理解することができるようにする。
 - イ 単元の中で重点的に指導したい語句を精選し、児童がその語句を使って説得力のある文章を書くことができるようにする。

(2) 具体的な取組

- ① 児童が筋道立った論を展開できるための文章構成図の活用

本単元では、文章構成図を、教科書の例文の段落構成を捉える段階と、資料を生かして呼び掛けの文章を書くための構成メモを作成する段階で活用した。構成メモは、説明文の基本的な文章構成である「序論」「本論」「結論」の三部構成とし、本論の部分には説明に必要な資料と、その見出しを図示することができるようにした。

本時では、構成メモを作成する学習活動を行った。例文の段落構成を捉える段階で使用した文章構成図を掲示するとともに、それと同じ形式の構成メモワークシートを使って構成メモを作成させた（図5）。



図5 構成メモを作成

② 児童の考えをはっきりとさせるための思考に関わる語句の指導の工夫

I期の実践と同様に、思考に関わる語句を「考えをはっきりさせる言葉」と呼んで児童に指導し、単元を通してワークシートに、それぞれの言葉の使い方や効果をまとめさせてきた。本単元では「資料から分かる情報と自分の考えとを区別し、目的や意図に応じて簡潔に書いたり詳しく書いたりすることができる」という単元の目標を受けて資料を引用するときに使う「～そうです」「～からは、～ということが分かります」という言葉と、資料を基に自分の考えを述べるときに使う「このことから、～と考えました」を重点指導語句に位置付けた。

本時では、資料から取り出した情報と自分の考えとを区別して文章を書くためには、どの思考に関わる語句を使えばよいのかを児童に考えさせながら、構成メモの書き方を指導した（図6）。

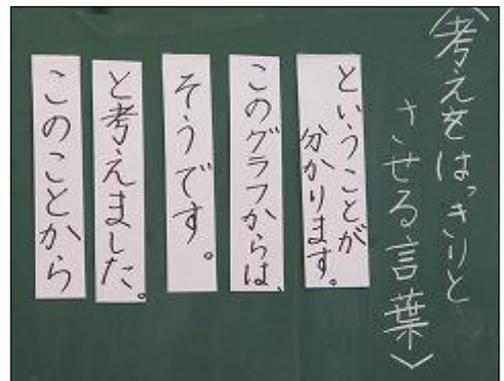


図6 思考に関わる語句を使い、資料から取り出した情報と自分の考えとを区別する

(3) 成果と課題 (○：成果，●：課題)

① 児童が筋道立った論の展開を行うための文章構成図の活用

- 教科書の例文の段落構成を捉える場面と、構成メモの作成の場面で文章構成図を活用することで「序論」「本論」「結論」の構成を意識しながら、本論の段階では、「問題点」「原因」「解決策」と筋道立った文章構成になるよう構成メモを作成することができた。
- 単元の最後に呼び掛けの文章を書く際に、作成した構成メモを基に筋道立った文章を書くことができた。
- I期の授業実践で課題となっていた、文章構成図の字数が多く、文章の構成が一目で分かりにくかった点について、文章の精選をすることで視覚的にも文章の構成を捉えやすくすることができた。
- 文章構成図をワークシートにして指導してきたが、ワークシートの様式を文章の構成に沿った枠にしていたため、児童が自ら文章の構成を捉え、視覚的に分かりやすくまとめる力を伸ばすことができなかつた。また、下位の児童が多いという学級の実態からワークシートを使用したがるが、上位の児童にはノートに構成図を書かせるなど、児童の実態に合った工夫をする必要があった。

② 児童の考えをはっきりとさせるための思考に関わる語句の指導の工夫

- 資料を引用するときに使う「～そうです」「～からは、～ということが分かります」という言葉と、資料を基に自分の考えを述べるときに使う「このことから、～と考えました」を重点指導語句に位置付け、教科書の例文にサイドラインを引かせたり、それらの語句の文中での効果を考えさせたりした。構成メモを作成する際も、資料から取り出した情報と自分の考えとを

分けて書かせるために、これらの語句を必ず使うように指導した。その結果、単元の最後には資料から分かる事実と自分の考えとを区別して、呼び掛けの文章を書くことができた。

- I期の課題であった思考に関わる語句の指導の時数が少なかったということについて、本単元では、重点指導語句を設定し、単元の帯活動として指導した。指導する語句を明確にするとともに、指導の時間を確保することで、意味理解の定着を図ることができた。また、I期で使ったワークシートを継続して使用したことで、児童が語句の学習を主体的に進め、思考に関わる語句の効果や例文をワークシートにまとめながら理解につなげることができた。
- 重点指導語句として取り上げた語句については、児童がそれらを使って文章を書くことができた。これらの語句を使うことで、資料から取り出した情報と自分の考えとを分けて書くことができたが、書きぶりが似通ってしまい、児童の表現の幅を狭めてしまった。重点指導語句を基礎として、自分で語句を調べたり、友達と出し合ったりしながら、より多くの語句に触れさせ、目的や意図に応じて文中で使い分けられるようにすることも考えて指導していく必要があった。

③ その他

ア 関連図書の活用

- 教科書にある資料だけでなく、地球温暖化の関連図書の中から資料を集めたことで、児童が自分の興味関心や問題意識に基づいて呼び掛けの文章を書くことができた。あらかじめ関連図書のコーナーを教室に常設したことで、授業時間以外でも手に取って資料を集める児童がいた。

イ 既習内容の活用

- 児童はI期の授業実践で意見文を書く際に自分の経験を根拠にしたり具体的な数値を示したりするなどの工夫をすることで説得力が増すことを学習した。資料を活用して呼び掛けの文章を書く本単元でも、これらの工夫を取り入れて書く児童が多数見られた。また、「もし、～だとしたら」という言葉を使って、自身が提案する二酸化炭素の排出を増やさないための具体的な取組を行わなかった場合に、どのようなことになるのか述べることで、呼び掛けの文章に説得力を持たせる工夫をする児童もいた。既習内容を生かして説得力のある文章を書くことができるようになってきた(図7)。

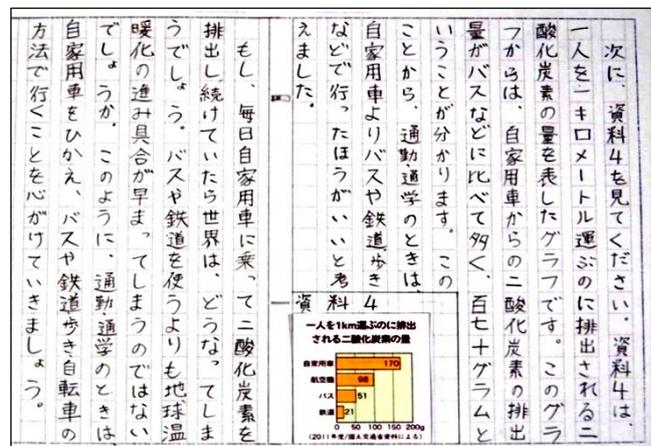


図7 児童が書いた呼び掛けの文章

5 1年間の総括

(1) 研修の成果

① 児童が筋道立った論を展開できるための文章構成図の活用

文章構成図は、児童が教科書教材の文章構成を理解するための手立てとして有効であると感じた。また、教科書教材で学んだ筋道立った文章構成を参考にし、意見文を書く際の構成メソとして活用することで、児童が筋道立った論の展開を行うことができるようになってきた。

I期では、文章構成図に書く分量が多く、文章の構成を視覚的に捉えることが難しくなってしまう。II期では文章構成図に書く文章の精選をしたことで、図としての視覚的な効果を高めることができた。

② 児童の考えをはっきりとさせるための思考に関わる語句の指導の工夫

単元の中で、児童に身に付けさせたい語句を重点指導語句として位置付け、思考に関わる語句

を意図的に指導し、語句の持つ意味を考えさせた。その際、その語句がある場合とない場合とで文章を比較させ、児童の知識や経験を基に考えさせることが有効であった。語句の持つ意味や読み手に与える効果を主体的に考えることができ、それらの語句を使う良さを理解して使う姿が見られるようになった。

③ 研修全般を通して

本研修では、教研式NRTテスト（平成30年4月17日実施）の結果を基に課題となる観点や領域について児童の実態を述べてきた。本学級の児童は「書くこと」の領域で課題を抱えていた。改めて同じテストを「書くこと」の領域に絞って、平成30年12月1日に実施した。結果は以下のとおりであり、「書くこと」の領域で理解が深まってきていることが分かる。

表1 NRTテストの比較（4月・12月）

領域	小問内容	通過率 (%)		
		学級 (4月)	学級 (12月)	全国 (4月)
書くこと	図と関連して書く	74	92	82
	グラフを用いて書く	74	84	81
	意見文の材料の選択	67	72	83
	意見文の工夫・比喻	22	68	58
	表現の工夫・繰り返し	70	92	89
	意見を述べている文を選ぶ	67	56	75
	感想を述べている文を選ぶ	74	92	84
	文章構成の理解①（説明の工夫）	56	68	57
	文章構成の理解②（説明の工夫）	30	30	28
	主題の理解	56	76	68
	意見文の段落の構成	41	40	51
	意見文の構成の順序	41	40	48
	表現の工夫・倒置	22	36	30

(2) 今後の課題

教師が作成した文章構成図に、読み取った意見文の要旨を児童に書き込ませ、文章全体の構成を可視化させたり、構成メモとして児童が文章を書く際に活用させたりすることで、児童が筋道立った文章を書くことができた。

しかし、教研式NRTテストの結果では、文章構成の理解に課題が残った。児童が文章構成図を一から作成し、意見文を読むことや書くことに活用するのではなく、教師が作成したものを活用する指導では、様々な目的に応じた論の展開を理解させるには至らなかった。

今後は、文章構成図も含め、児童が考えをノートに書くことを基本とし、構造的なノートづくりを意識して指導することで、児童がより思考を働かせて文章構成の理解を深めることができるようにしていきたい。そのためにも、文章構成を文章構成図で可視化して捉えるだけでなく、書き手がどのような意図を持って、このような文章構成にしたのかをしっかりと考えさせていきたい。

そして、意見文などを書く際には、伝える相手や場面によって求められる論の展開は様々なことへの理解を深め、相手意識を大切にすることで、どのような文章構成にすれば、自分の意見や主張により説得力を持たせることができるのかを考えさせていきたい。

また、思考に関わる語句の理解とその使い方については、国語科はもちろん、他教科でも考えをまとめたり、発表したりする場面で必要不可欠な語彙の知識・技能であると考え。児童が日常的に、思考に関わる語句を使って論理的に表現させる仕掛けづくりを工夫していく必要がある。

主な参考文献

[1]教育科学：「国語教育 791・798・803・815」

明治図書 2017, 2018

図表等の許諾について

図1～7、表1は授業実践の中で児童が記入した意見文や活動の様子、学力テストの結果の一部である。記入児童名を伏せて資料を活用することとし、児童の保護者からも報告書での使用許諾を得た。